

. 学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

大淀町立大淀中学校						
	1 年	2 年	3 年	障害児学級	計	教員数
学級数	6	7	7	2	22	45
生徒数	204	234	237	7	682	

. 研究の概要

1. 研究主題

一人一人の特性に応じた指導の改善を図り、確かな学力の向上をめざす。
主体的に学習を進める自己教育力を育てる。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年で実施する。選択教科の時間の活用を基本とし、1・2 学年は週 1 時間、3 学年は週 2 時間実施する。

全学年とも国語・数学・英語の 3 科目を、各教科 2 コースずつ 6 コース開設し、1 つの学年のクラスを、前半クラス（1～3 組）と後半クラス（4～6 組または 7 組）に分けるので、全学年とも 12 講座ずつとなる。

また、夏期休業中や放課後の時間帯で補充的な学習もする。

(2) 年次計画

平成 14 年 度	テーマ	一人一人の特性に応じた指導の改善を図り、確かな学力の向上をめざす。 生徒一人一人のやる気を引き出す。
	仮説	初めての学習形態において（選択における習熟度別学習）、個に応じた指導を実施することで、生徒の学習意欲や学力の向上を認めることができるのではないかと。
	研究内容・方法	学年当初には、講座選択にあたってのオリエンテーションをもち、生徒自らに慎重に選択希望させ、希望者数の調整をしていく。 教員は、講座の到達目標を設定し、年間計画を立て、適切な教材を準備する。 また、実施の途中や、実施後（1 年後）には適当な学力の測定を実施し、形成的な評価を行うとともに、本事業への評価とする。

平成 15 年 度	テーマ	一人一人の特性に応じた指導の改善を図り、確かな学力の向上をめざす。 生徒一人一人のやる気を引き出す。
	研究の見通し	選択における習熟度別学習も 2 年目に入り、生徒たちも学習課題を意欲的に見付け、授業に積極的に参加することができる。また、学力の向上を認めることができる。
	研究内容・方法	学年当初には、講座選択にあたってのオリエンテーションをもち、生徒自らに自分の学習課題に見合った講座を選択させ、希望者数の調整をしていく。 教員は、昨年度の成果と反省の上に立ち、講座の到達目標を設定し、年間計画を立て、適切な教材を準備する。授業時間数もさらに増やす。 また、実施の途中で適当な学力の測定を図り、生徒の実力に見合った講座への変更を認めていく。1 年を経過した時期には、学力測定及び生徒の意識調査を実施し、形成的な評価を行うとともに、本事業 2 年目の評価とする。

平成 16 年 度	<p>テーマ 一人一人の特性に応じた指導の改善を図り、確かな学力の向上をめざす。生徒一人一人のやる気を引き出す。</p> <p>仮説 選択における習熟度別学習も3年目に入り、生徒たちも学習課題を意欲的に見つけ、授業に積極的に参加することができる。また、顕著な学力の向上を認めることができる。</p> <p>研究内容・方法 学年当初には、講座選択に当たってのオリエンテーションをもち、生徒自らに自分の学習課題に見合った講座を選択させ、希望者数の調整をしていく。</p> <p>教員は、2年間の成果と反省の上に立ち、講座の到達目標を設定し、年間計画を立て、適切な教材を準備する。授業時間数もさらに増やす。</p> <p>また、実施の途中で適切な学力の測定を実施し、生徒の実力に見合った講座への変更を認めていく。1年を経過した時期には、学力測定及び生徒の意識調査を実施し、形成的な評価を行うとともに、本事業最終の評価とする。</p>
--------------------	---

(3) 研究体制

特別委員会「評価検討及び学力向上検討委員会」を開設する。この委員会では、主に新教育課程におけるの評価の在り方を検討するが、学力向上に関するフロンティア事業の推進方策についても検討する母体となる。

組織メンバーは、校長、教頭、教務主任、進路指導主任、分掌（選択）の長、分掌（総合）の長、各学年主任の9人とする。

平成15年度の成果及び課題

成果

学力について

本事業も2年目に入り、学力補充講座の時間数も各学年とも1時間ずつ増え、担当する教員も各教科の基礎のクラスは複数配置して、より充実した内容になっている。そこで、それらの取組がどのように学力に反映しているか何らかの形で集約していきたい。学力傾向を把握するためのアンケート実施は2月末の予定である。

生徒の意識について

1・2学年の生徒にとっては初めての授業形態であったが、3学年では2年目になり生徒たちにも定着してきている。意欲的な生徒は自主的に課題を進めていけるので学習意欲が高まって楽しい授業となっている。全体としては、1講座当たりの人数（15人～25人）が少なく、特に各教科の基礎のクラスでは教員を複数配当しているため、授業が分かりやすいという生徒が多い。低学力傾向の生徒も、意欲を高める難しさはあるが、学習に向かおうとする雰囲気は感じ取れる。

校内体制について

本年度から実施する学力選択については、教材の準備・計画は該当する教科担任が行うが、指導に当たっては、教科外でも担当することとした。

しかし、昨年度の反省から各教科ともレベルの高い応用のクラスよりも、基礎のクラスの生徒を教える方が時間がかかり難しいということが分かってきたため、基礎のクラスに複数教員を配当することにした。また、基礎のクラスの主になる教員は、該当教科の者が必ず行っている。

課題

本年度は、選択学力の実施が2年目になるため、教員・生徒ともにやらねばならない学習として定着してきたようである。しかし、教材は、ほぼどの教科も従来の反復学習に使っていたプリントをさせる程度に留まっている。そのため、まだまだ、生徒たちの力を引き出すような授業にはなっていない。1グループあたりの生徒数をもう少し減らすことができれば、個に応

じた細かく行き届いた指導をすることができる。しかし、人的配置や教室の確保などの問題があり、生徒の数を減らすことは難しい。

来年度は本年度の経験を踏まえて、計画を当初より細かく立て、教材も十分検討した上で使用するようにしたい。また、生徒たちの学習意欲を高めるための指導の方法もより工夫し、教員間の検討する時間を確保して教材の開発等にもあたっていきたい。

・学力把握のための学校の取組について

各講座では適宜、学力把握の小テストを年間数回実施する。全体には、ほぼ1年間が終了するころに、生徒の意識調査のためのアンケートと本校作成の学力テストを実施する。

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

年度末に、平成15年度の実験学力講座開設にあたっての生徒への配布資料及び教材やアンケートなどの資料をまとめ、来年度のフロンティア事業3年目のまとめの冊子作りの資料とする。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|---|-------------------------------------|------------|-------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> | 14年度からの継続校 | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | | 4～6学級 | |
| | 7～9学級 | | 10～12学級 | |
| | 13～15学級 | <input checked="" type="checkbox"/> | 16学級以上 | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> | T・Tによる指導 | |
| | その他 | | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | 社会 | 数学 | 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 | 音楽 | 美術 | 技術・家庭 |
| | 保健体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | <input checked="" type="checkbox"/> | 有 | 無 |